

一般会計予算決算常任委員会  
山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会  
連合審査会記録

平成27年12月15日

【開催日】 平成27年12月15日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後2時48分～午後5時18分

【出席委員】

一般会計予算決算常任委員会

委員長	伊藤 實	副委員長	小野 泰
委員	岡山 明	委員	河野 朋子
委員	笹木 慶之	委員	下瀬 俊夫
委員	中村 博行	委員	松尾 数則
委員	矢田 松夫		

山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会

委員長	伊藤 實	副委員長	笹木 慶之
委員	石田 清廉	委員	大井 淳一朗
委員	河野 朋子	委員	中村 博行
委員	長谷川 知司	委員	山田 伸幸
委員	吉永 美子		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
----	-------	-----	-------

【傍聴議員】

議員	河崎 平男	議員	杉本 保喜
議員	中島 好人		

【執行部出席者】

市長	白井 博文	総務部長	中村 聡
総合政策部長	芳司 修重	総合政策部次長兼企画課長	川地 諭
財政課長	篠原 正裕	財政課調整係長	西崎 大
成長戦略室長	大田 宏	成長戦略室副室長	大谷 剛士
成長戦略室	平田 崇	成長戦略室主査	大井 康司

【事務局出席者】

局 長	古 川 博 三	局 次 長	清 水 保
議事係長	田 尾 忠 久		

【審査事項】

- 1 「議案第90号平成27年度山陽小野田市一般会計補正予算（第3回）について」のうち「第2表債務負担行為補正 山口東京理科大学薬学部校舎建設事業」の部分について

午後2時48分開会

伊藤實委員長 それでは一般会計予算決算常任委員会と山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会の連合審査会を開催します。本日は一般会計で「議案第90号平成27年度山陽小野田市一般会計補正予算第3回について」のうち「第2表債務負担行為補正山口東京理科大学薬学部校舎建設事業の部分について、連合審査をしたいと思います。最初に事前に資料請求をしていますので、そのことを含めて執行部の説明をまず求めます。

大谷成長戦略室副室長 まず、債務負担行為の説明をして、後に資料の説明をします。補正予算書7ページ、第2表債務負担行為補正の表の一番上にある山口東京理科大学薬学部校舎建設事業について説明します。現在、山口東京理科大学の公立大学法人化に向けて、関係者及び関係機関の協力をいただきながら事務を進めていますが、平成28年4月に山口東京理科大学を公立大学法人化した後、平成30年4月の薬学部開設を目指しています。薬学部校舎の建設には約15か月の工期が必要となりますので、平成28年度に薬学部校舎の建設工事に着手する必要があります。そのためには、12月下旬から基本設計、実施設計等に係る業者の選定作業を進める必要がありますので、平成28年度に限度額1億1,100万円の債務負担行為を設定するものです。事業費の内訳としては、基本設計に4,050万円、実施設計に4,950万円、施設備品設計に400万円、測量・地質調査に1,700万円の合計1億1,100万円となっています。

大田成長戦略室長 先般、資料請求のあった資料について、簡単に説明させていただきます。まず1番目の薬学部建設地検討資料ということで、お手元にA3の資料が配ってあると思いますけれど、その1ページで現在の学校用地、それから厚狭駅南部地区の整備用地の2か所について、利便性、それから校舎建設、これは投資的経費です。それから管理運営費、

經常経費、そしてその他という4項目についてそれぞれのメリット、デメリットの一覧表を付けています。前回の予算決算委員会の際に、厚狭南校舎の跡地という話もありましたけれども、私どもとしては現在も定時制があそこで運営されているということ、それから県の県立高等学校再編計画に今のところ廃止ということは全然上がってないということで、南校の校舎についての検討は具体的にはしていません。それから2番目の学生居住状況ということについて、たぶんこれは主に下宿生の居住地のことだろうということで、直近の大学で把握している数字、10月末現在の学生、大学院生全ての自宅からの通学者、そして下宿生の居住地を挙げています。見ていただくと分かりますように、市内以外の下宿生は全て宇部市に居住しているという状況で、山陽小野田市又は宇部市以外の下宿生はいないという状況になっています。それから3番目の理科大学との教育方針の大きな差異ということについては、特段これといった資料は持ち合わせていません。それから4番目、薬学部関係の予算収支計画、工学部単体との比較を含むということですが、3ページに現時点での工学部単体の財政シミュレーション、それから4ページが薬学部を含めた財務シミュレーションを挙げています。あくまでも現時点での数字ということで、今後具体的な公立大学法人の予算編成が進んでいけば、さらに精査をしていくようになるかと思います。それから5番目の薬学部建設のタイムスケジュールということで、これは前回の予算決算常任委員会の際にも提出した建設スケジュール案というものを5ページに付けています。それから資料恵与の中にはなかったんですが、6ページ、7ページ、8ページ、9ページについては、こちらからこの度提出したものです。6ページについては現時点で考えている薬学部建設に対する財源活用方法を挙げています。7ページ、8ページは、その6ページの財源活用に伴い、起債の償還等をどのように対応していくかという表になっています。それから9ページについては、現在の学校用地を色塗りして、東京理科大学が所管しているもの、そして3月末現在で宇部市に返さないといけない土地、それから使用貸借をしている土地ということで、色塗りで区分けをしています。資料については以上です。それから、これは本会議の場で言うことかもしれませんが、先般、定款の変更等の三つの議案を最終日を待たずに先行して議決をいただきましてありがとうございました。おかげさまで12月10日に議決をいただいて、翌日の11日に県の市町課へ変更申請に行きました。大変御配慮ありがとうございました。

伊藤實委員長 それでは、執行部から説明がありましたので、一つ一ついき

いと思います。最初に1ページ目の山口東京理科大学薬学部設置場所の比較表について、委員からの質疑を受けます。

石田清廉委員 現状で厚狭駅前との比較表が提示されています。ただ、それ以前に未解決の部分、宇部市との土地の交渉事がどのような決着を見たのか、それを踏まえないと次のこの比較にまで至らないんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

伊藤實委員長 それでは宇部市の関係で、契約の関係等どのような状況か市長からお願いします。

白井市長 10日の日、先週ですね。定款別表のミスがあり、議会の皆さんには大変御迷惑を掛けて申し訳なく思っています。後の手続のことを考えてくださって早めに議決していただきました。その後、宇部市に出向き、宇部市の市長、副市長、あと二人の部長、先方は4人ですね。私のほうは私と成長戦略室の大田さんとそれから大谷さんと3人で、協議しました。山陽小野田市側は私が代表して申し入れる形にしました。それは引き続き使用はさせていただきたい。まずこれが先です。第一ですと。その点については全面的に協力しますという市長のお返事でした。次にどういう形態の法律関係を結びますかという点について、私のほうから一部売却、一部は使用貸借、若しくは市民感情等がもう30年間も使わせているんだからということも加わって、この際一括して買ってもらうべきだという声強い場合、大きい場合はそれも検討させていただきますという形で、どういう権利関係、法律関係をそこで作るかということについては、まだペンディングになっています。近く宇部市から返事があると思います。しかし、どういう内容のものであろうと「引き続き、どうぞ使ってください」、山陽小野田市のほうは「使わせていただきます」という点では一致しました。その旨、10日に議決いただき、それを成長戦略室の大谷課長が県の市町課に届けた際にやはり聞かれたそうです。使用については「お互いに合意ができていますね。それ以上問題はありませんね」ということだったそうです。あと関心があるのは県じゃなくてお互いの市の間でどういう形で権利関係を決めるかということが残っているということになります。

石田清廉委員 今後の大きな問題点としては売却あるいは使用料という形が今後の内容に大きく影響してくるだろうと思います。当然予算が絡むことですから、その辺がはっきりしない状況で今日の審議の議決がどのよう

にされるかというのは今の時点では非常に不安な状況で進めなければならないという思いがするんですけども、その辺はどのような形で今日提案されるんですか。

白井市長 非常に申し訳ないんですけども、御不安の趣旨がよく分からないんですが。

石田清廉委員 今日までいろいろな提案をいただきましたけれども、当初の財政的な負担の問題が、今までの話とは、これもし買うとか今後使用料ということになってくると、その辺りの金額的な数値が変わってくるのではないかという意味の不安要素です。

白井市長 非常に申し訳ありませんけれども、大きい事業費と比較するとごく一部です。

伊藤實委員長 確認します。要するに最初は無償で、これまで同様に借りるという方向だったわけですよ。しかしながら、先方の市長と協議の結果、購入若しくは一部を賃貸ということになりそうということでもいいんですか。

白井市長 細かい経過は申し上げにくいんです。多分宇部市も聞いていらっしゃると思います。結論的には今委員長の言われるとおりです。

伊藤實委員長 ということは、申出は一応無償でということをお願いしたんだけれど、先方から購入してほしい、若しくは賃貸で賃料が発生する、有料ということでもいいわけですね。

白井市長 賃貸借は全くありません。一部売買かそれとも使用貸借か。

伊藤實委員長 その金額は幾らですか。その辺、分かっていますか。

白井市長 売買の部分はもう一回評価し直すと。鑑定費用は双方折半でということについては申合せをしました。

石田清廉委員 今、ごく一部の数字的な動きだということですが、ごく一部という数字はどのくらいの範囲をごく一部と理解してよろしいでしょうか。

白井市長 私も何十年、そう大した額の給料をもらって、贅沢三昧の生活をしてきたわけではありません。ごく普通の市民的な家庭で何とか生活をつないできた。それと比較すると桁違いの大きい事業です。桁違いの大きい事業の中では、そのごく一部だということです。

伊藤實委員長 今回、この債務負担行為は大事な案件だと思うんですよ。そういう曖昧なことを言われると委員も採決するに当たって大変困惑するんですが、交渉事なので買うにしても法外な金額ではないと思うので、大体想定されて交渉されていると思うんですよ。市長なり室長、その辺分かるんでしょ。

白井市長 先ほど、評価額だと申し上げました。あそこは約3万3,000平方メートルあります。そのうちの3分の1ぐらいを現在学校法人東京理科大学の体育館の敷地等に民法でいう贈与、行政法でいう譲与がなされていて、所有権は学校法人東京理科大学に移っているかのようなのですが、手放す際は宇部市に戻してくださいよと、こうなっていますから、条件付きの贈与の状態です。手放す、すなわち今度公立化するときには手放すことになりますから、そのときには返すということになって、それを引き続き使わせてくださいということについては全面的に承知してくださいました。ただ後は、先ほど申しました、どの範囲について売買で、どの範囲については使用貸借かと、そこはこれから交渉として残っています。

大田成長戦略室長 図面上で説明します。お配りした資料の9ページ、色塗りをしている表があると思いますけれど、これの赤色と青色の部分です。右側の下に面積を付けていますけれど、赤い部分が1万870平方メートル。青い部分が2万2,565平方メートルで約3万3,400平方メートル近くになるかと思います。

伊藤實委員長 評価額ということですが、それで今、想定される評価額でいくと総額幾らになるんですか。

大田成長戦略室長 学校法人東京理科大学がこの度市へ示した評価が赤い部分、間違えて山陽小野田市に寄附するというので一覽で上がってきたので、赤い部分の評価はそのときのものを持っているんですが、その平米単価を青い部分も含めて全部掛けてみますと4億5,500万円程度になるかなと。先ほど市長も申しましたように、これから改めて評価を出し

ますけれども、そのぐらいの金額かなと思っています。

山田伸幸委員 それ以外にこの近辺に複雑に宇部市の土地が入り組んでいるのではないかと思うんですが、その辺は今後の引き続きの利用に全く影響がないのかどうなのか。その点いかがでしょうか。

大田成長戦略室長 少なくとも現在の学校敷地内にその他の宇部市の土地があるということはないと思います。周辺のことについては把握していません。

矢田松夫委員 現在の学校用地と南部地区の新幹線口のところですが、例えば新たに購入すればというこの金額も含めて、現在の学校用地のデメリットの校舎建設のところに入れて説明すべきではなかったかと思うんですが、どうでしょうか。

大田成長戦略室長 言い訳をするわけではないですが、1ページの表は薬学部を建てるに当たっての比較表ですから、今回宇部市との間で、もし購入するとなったときは、薬学部が「建つ、建たない」は別として工学部の公立化に伴って買っていくということになりますので、この表には上げていません。

下瀬俊夫委員 先ほどの評価の関係で4億5,600万円というのは、赤と青の部分ですか。

大田成長戦略室長 はい。赤い部分の平米単価を赤と青の合計に掛けた場合の数字が4億5,500万円程度ということですよ。

下瀬俊夫委員 この黄色の物件2というところは別にそういう話はないんですか。

白井市長 ここは山陽小野田市の土地です。薬学部ができれば薬草地にしようかという予定の土地です。

下瀬俊夫委員 宇部市になっていますよ、物件2は。

大田成長戦略室長 宇部市域にある学校法人東京理科大学が持っている土地です。短大開設の前は山陽小野田市が所有していた土地です。現在は学校



法人東京理科大学が持っている宇部市内にある法人の土地です。

岡山明委員 この図面で貸借、無償貸借と分けていますね。4億5,600万円、それが片方になるという形はないんですか。例えばその金額が半額に、無償譲渡に関してはそのまま継続しますよと、両方ともという形は今言われました。片方というのはありませんか。

白井市長 青のほうは面積が少なくなることはありますが、赤のほうは広がる以外にありません。現在、赤の大半はこの上に体育館が建っています。そしてテニスコート等ありますが、このテニスコートの辺りに薬学部の校舎を建てたいという予定にしていますから、青の現在グラウンドとして使っている土地ですが、ここの一部が校舎用地になるということがあり得ます。ですから青が広がることはありません。赤は広がる可能性があります。

笹木慶之委員 図面の物件2と書いてあるところは現状はどうなんですか。

大田成長戦略室長 現状は雑種地になっています。

笹木慶之委員 何もないんですね。

大田成長戦略室長 未利用地です。

笹木慶之委員 例えば物件2の用地と水色の用地がありますよね。これ振替交換できないんですか。

白井市長 物件2については先ほど述べました薬学部の科目履修の上で必要な薬草地に充てる予定ということにしています。それと青はグラウンドです。グラウンドですから物件2は雑種地です。この一部でもグラウンド化するためにはそれ相当の資本投下が必要になります。

大井淳一朗委員 青いところの部分、この図面によると青のところと赤が少し掛かっていますけれども、このところに薬学部を建てるということです。つまり宇部市の使用貸借あるいは無償譲与ですけど、いずれは宇部市の土地になりますが、その上に校舎を建てるということです。理論的にはその使用貸借の土地に校舎を建てることは可能なわけですけども、御承知のように賃貸借と違って使用貸借なので少し弱いところがあります。

そのような形は余り望ましくはないと思うんですが、この辺りはどのような方針で行かれるのか。この点についてお答えください。

白井市長 それらも含めて全て今宇部市側で検討されています。宇部市側はやはり基本的にこの広い土地を無償で、譲与部分も、赤の部分も青の部分も無償で30年間学校法人東京理科大学に貸してきたと。それなりの協力はしましたという気持ちを持っていらっしゃる。その市民感情を踏まえて今度公立化するとすれば山陽小野田市との間で土地問題、どんなふうに解決したらいいかを今検討されています。

伊藤實委員長 ほかに。よろしいですか。それでは最初の比較表についての質疑を受けます。

吉永美子委員 1ページの比較表でメリット、デメリット、それぞれあるわけですが、厚狭駅南部土地区画整理用地というところで見ると、メリットの下4、その他というところで要は山陽小野田市、特に厚狭新幹線を中心としたまちづくりという点では大きな効果が出るメリットが書かれていると思うんですけど、しかし、デメリットでは経費が掛かるというところはかなり連ねてあるんですが、その一番下のデメリットの下で、用地交渉に時間を要するので先延ばしになると書いてあるということは、平成32年度以降ということになっています。そうなってくると市長が広報で30年に決定しましたと書かれているということは、この厚狭駅南部土地区画整理用地については交渉に時間が掛かる、30年と言われたことが変わってしまうということで厚狭駅は市長としては考えておられないという結論に至るのでしょうか。

白井市長 厚狭駅南部地区の土地区画整理事業をしました。22ヘクタールの土地というのは実はこうした大きい事業の対象地としては格好のまさにまちづくりの活力になるような柱になる、そんなところだと認識しています。公立化の準備のために学校法人東京理科大学の代理人に決めた人、固有名詞を申し上げていいと思いますが、塚本先生が工学部時代のこの10年間のうち6、7年学長をされていました。その大半は学校法人東京理科大学の理事長を兼ねていらっしゃいました。学長時代、私は卒業式、入学式に全部出席しましたがけれども、学長室で漏らされるのは「もう少し町なかに出たいね」といつもそれでした。「学生もここではかわいそうだ」と。それで公立化の話が出たときに、あの方は理事長時代に東京で幾つかのキャンパスを造った経験があります。野田キャンパスとい

う薬学部、葛飾キャンパスという工学部という経験をたくさんお持ちで、それですぐ山陽小野田市内といえば新幹線の南部地区ということで東京から知り合いの業者を呼んで、工学部も併せてであれば一番いいんですが、せめて薬学部だけでも何とかということいろいろ調査されたんですけども、どうもいろいろ民有地が入り組んでいて、はっきりした先の見通しが立たないと、業者も図面が書けませんと言って塚本先生に報告があったそうです。それから塚本先生は意識を切り替えられたんですけども、私たちよりももっと先に進んで、まずこれまでの工学部だけの言ってみれば出先の山口東京理科大学、こんな場所ではさみしいなと学生にもかわいそうだなという気持ちをいつも漏らされていて、これ幸いということで、すぐ新幹線南側の周辺土地に目を付けられたんですけども、先生が業者を連れてきていろいろ検討しても、あそこではどうしても薬学部だけでも建てるのは無理だということで、途中からは今の工学部のあそこの広い土地、学校用地の中で何とか薬学部の校舎、研究室を建てることできないかといち早く意識を切り替えられました。私たちはその後を付いて行くという形です。ですから、厚狭駅の南側の魅力、今吉永議員がおっしゃる通りで、私もあそこだと思いましたがけれども、しかしそういうことで今ではとりあえず校舎はやはり古くなりますから、いつかは建替えの時期が来ます。工学部が既に建築して20年ですから、長い山陽小野田市の将来を考えた場合に更に20年ぐらい先には移動の時期が来るのかなと、その際にどこが適切なんだろうという課題がまた将来来るんじゃないかという気がしています。

笹木慶之委員 ちょっと違った角度からお尋ねしますが、この比較表は厚狭駅南部土地区画整理事業区画整理用地となっていますね。御存じと思いますが、文化会館の南側の土地、県道との間にかなり広大な土地があります。それは調査されたんでしょうか。なぜかと言いますと、厚狭駅南部区画整理用地は相当インフラ投資しているんです。したがって、地価が上がっています。実は私は文化会館を造った当事者ですから、あのときにあそこの土地は地権者が13人くらい居ましたが、1週間で買収しました。12月25日に議決をいただいて、1月6日くらいですか、正月はちょっと休みましたから。そのときは確かに年数がたっていますから、少しは上がっていると言いながらも、余り地価は上がっていないはずで、その単価を比較してみると、とてもじゃないけどこんな数字にはならないんですね。それほどどのように検討されたのでしょうか。

白井市長 ちょっと説明が変わりますが、笹木委員の認識と現状とが全

然違うということを一言申し上げたいんです。途中であの事業は頓挫しました。というのは予定していた事業費が不足して出てこなくなったんです。市側もそれだけの余力がありません。それで途中で放置された状態でしばらく時間が経過しましたが、当時の財政課が知恵を絞って合併特例債の活用を考えたんです。しかし、合併特例債は新規事業じゃないと駄目です。だから県の市町課はそれですっと断りました。それで財政課が知恵を絞りに絞って、山陽小野田市にとっては新規事業じゃないですかと、これで説得したんですね。それでようやく事業継続と合併特例債が使えたといういきさつがありますが、いずれにしても単価は非常に上がっています。

笹木慶之委員 もう一度説明しますね。土地区画整理事業の範囲が決まっていますね、20ヘクタール。ところが文化会館の南側、厚狭川を挟んだ土地です。あそこは、それぞれ条件はあるかもしれませんが、かなりこれから先の農業を営むにはなかなか難しい方たちもいらっしゃるはずですよ。

白井市長 分かりました。申し訳ありません。以前、山陽地区の中学校を三つ集めたらどうかと言われて提案された土地ですね。現状は宅地ではありません、農地です。そして遊水地としての機能も果たしています。そうになると問題は非常に難しくなります。大正川のポンプ場、ポンプ機3台取り付けるというのが県のかねての山陽町に対する約束で、そう思っていました。ところが平成22年、23年の大水害のときに駆け込んだところ1台しかなかったんです。その後、2台追加してもらいました。

伊藤實委員長 そのことは、もう承知しているのでいいですよ。進行します。

笹木慶之委員 申し上げたいのは、あそこの実質面積が幾らあって、確かに今の遊水地の部分が桜川の一部については残したとしても、レベルを文化会館のレベルまで上げれば、水の心配はないということがあるんですね。

白井市長 その点さっき申し上げようと思ったんですけど、先ほどの続きです。それで3台そろえてもらいました。そのときに私が県の建設部長に「これで厚狭の水問題は解決したと考えてよろしいのでしょうか。3台のポンプがフル稼働すればもう心配はないんですね」と確認したところ、建設部の公式的な返事は「現状を前提にします。一定の遊水地としての機能を営む一丁田、あそこが宅地化すれば別です。また、文化会館と川東との間、あれが宅地化すれば別です」とこういう返事だったんです。

中村博行委員 今の市長の答弁ですが、ということは、厚狭駅南側にそういう構造物は防災を含めた中で無理だという認識でよろしいでしょうか。

白井市長 文化会館の南側、あるいは一丁田、あの辺りの地形を変形して、もっと高くすると、それだけ遊水地、水をためる力を失います。そうすると3台のポンプでは足りなくなるということを県から言われています。

石田清廉委員 御提案の件で確認します。私自身の思いも込めて申し上げますけど、当然この最初の薬学部も含めた建設場所ですけども、現在の理科大の宇部の土地も含めて、これを使わざるを得ない財務状況にあることはやむを得ない状況だという判断で、これが選択肢の1番であることは思いの中で理解しています。一方、今日比較で出された現在の学校用地を使う場合のデメリット、これが幾つか書かれていますが、公共交通機関等を含めて、そういった状況のデメリットを解決できる、今後の行政の手法によってこのデメリットはクリアできますよと、その上で先ほど申し上げた財政的な面で現在の理科大の用地を使うんだという覚悟ができていのかどうかよく分からないんですが、デメリットだけ書かれていますが、これは絶対にクリアできるんだという思いがあるかをお聞かせください。

白井市長 私たち、みんなその覚悟はできています。

松尾数則委員 厚狭駅南部はいろいろ問題があって難しいということですが、私が厚狭出身ということは別にして、今後の山陽小野田市のために、今回の大学の公立化、薬学部設置について、基本的には厚狭駅前に持っていくしか手段はないのではないかと気がしています。いろいろ防災の問題もありました。調整池の問題もありますけども、それも含めて、それを解決する手段が絶対ないとお考えですか。

白井市長 多少とも可能性があれば一所懸命追及します。それがないという判断です。

矢田松夫委員 先ほどの石田委員との関連ですが、基本的にJ R西日本は今後の公共交通機関については、不採算部門として、宇部線と小野田線、そして美祢線を挙げているんですが、これについての減便とか、そういったことについての不安もあるわけですが、J R西日本の支社長、若しく

はそれに近い幹部の方が市長に面会にときどき来られるんですよね、そういうところの対応は今後どうされるのかお答えください。

白井市長 御指摘のとおりです。増便の方向で働き掛けようと思っています。

伊藤實委員長 山口東京理科大学を公立化する目的は何ですか。最大の目的を再度確認します。

白井市長 一言で言えば地方創生です。地域から人を減らしたくない。明かりが消えかかっている。それをもう少し強い明かりにしていきたい。ですから、現在ある学校用地を利用してという形ではありますけれども、もっともっと広げていかなくちやいけないと思っている、ここが大切だと。決して局部的な視点で物事を考えては駄目だと考えています。

伊藤實委員長 今、市長が言われたように本日の一般質問でも市長もそのような答弁があったんですが、公立化についても委員会の中でもかんかんがくがく議論しました。賛否両論あったわけで、そうした中で一応公立化は決まって、今後薬学部ということですが、やはり廃校になって生徒が市内から逃げる、そういうことになったらいけないということで地域の活性化並びに今後若い人たちにこの地に住んでいただく、学生として。更には企業と連携をして居住してもらう、それが最大の目的。その手段として公立化して、更に薬学部をとという話と思うんですよ。それは議会側も執行部も同感だと思います。それであればこの比較表ですが、そういう波及効果という項目がないんですよ。真っ先の1番にそれが上がるべきじゃないですか。その波及効果なり、4番のその他の項ですよ。本来であればこの大学を公立化し、さらに薬学部を設置することによって山陽小野田市にどのような波及効果になるのかと。やはりそういうような比較の中で当然後は予算とかになるとは思いますよ、市長自ら言われたようにこの大学を公立化した目的は、地域の活性化と人口を何とか増やそうという思いと思うんですよ。その手段なんですよ。それが今は大学を造ることが目的になっているんですよ。ここで終わってはいけません。だから今こうやって合同審査の中で代案として新幹線の部分についてもどうかという資料は今日出るとは思ってたんですよ。実際に新幹線のところの固定資産税、半径1キロ以内でコンパスで振った場合に果たして薬学部を設置することによって、今の評価がどのように波及するか。今の工学部のところを1キロで振ると半分下は海ですよ。その半分のうちの半分は宇部市ですよ。そうした場合にどのように波及効果が違

うのか。やはりそういう詳細な資料を添えてしないと、市長が言われるように10年、20年後に変わればいいのかという問題じゃないと思うんですよね。だから市民としても公立化にすごく関心も持たれていると思いますので、委員会としてもやはり様々な視点からいろんな資料を提示された中で議論をしたいということでこのように合同審査をしているんですよ。その辺の試算はされているんですか。

大田成長戦略室長 大学の校舎が建つことによって周辺の固定資産税がどう変わるとかという試算はしていません。

伊藤實委員長 全然関係ないということですか。

大田成長戦略室長 税務課と協議をしてみないと分からないんですが、どのような考え方をもって試算ができるのかなと今考えています。

伊藤實委員長 はっきり言って民間は円高の1円の勝負をしているんですよ、何十銭の。それぐらいの詳細なことで設備投資をするんですよ。要は新幹線の前でもどこでもいいんだけど、やはりそういうような比較をするんだったら、ここに物件が来ることによってどのような波及効果になるか、やはりそういうところもすべきじゃないの、ずさんですよ。

笹木慶之委員 このデメリットのところでも二、三気になるから言っておきますが、成長戦略室も岐阜薬科に行かれたと思うんですよね。岐阜薬科での調査を聞いていると思いますが、例えば校舎建設の中に薬草園までうんぬんと書いてあります。校舎に薬草園は作りません。校舎から離れたところで薬草園、私どもはそこに行きました。それからもう1点、あそこは乗鞍の中腹にもう1個作っています。それからもう1点は、1学年から3学年までは別校舎で4年生以降が岐阜大学の附属病院の前に建っています。そのことを私どももいろいろ聞いてみましたら100点ではないかもしれないけれども、全体的な市内のあるべき姿ということを考えたならこうなんだと。今日持ってきていますけど、1学年から3学年の生徒の感想はちょっと田舎のほうに入っているようでそこまで行けませんでした。非常に環境のいい田舎でしっかり勉強ができますと、こういうことを書いています。あとお見せしましょう。だからこの辺りやっぱりもう少し正確に書かれないといけないと思いますがね。

大田成長戦略室長 まず1点目の薬草園については、ここに書いていますよう

に必置義務ですから、校舎の横に来なくてはならないということはないですが、岐阜にも行かれたと思いますけれど、ケシそれからトリカブトのようなものについてはきちんとした管理があるので、校舎のそばの薬草園でどこも管理しています。そして市民開放型の散策型の薬草園についてはほかのところで作るということも考えています。今ここに書いてあるように必置である薬草園まで整備しようとするれば面積が不足するという書き方をしていますから、必ずそこに作るという書き方はしていません。それから2点目です。教養課程と専門課程、校舎が変わっても確かに岐阜薬科大学についてはもともとあった古いキャンパスで教養課程をして、専門課程になって新校舎へ移ってくるというやり方をとっておられます。これは学校法人東京理科大学の薬学部、今後こちらの薬学部にも携わっていただく教授から言われているのが、東京理科大学の薬学部ノウハウは1年次から基礎的な研究を少しずつ始めるところが特色であるんだと。だから教養は教養だけ詰め込み、キャンパスを移動して専門課程に入るのではなくて、教養をしながら研究も1年次から基礎的に入っていくやり方が望ましいと考えているということがありましたので、そういう意味でここにデメリットを書いています。

笹木慶之委員　こだわるわけではありませんが、岐阜薬科大学のトリカブト等の植物は別の場所の一定の薬草園で誰が触ってもいいような状態でされています。これあえて私が聞きました。なぜかというトリカブトというのは無理にここじゃなくても山に行ったらあるんです。別に管理しなくてはならない植物じゃありませんと。場合によればこれ薬草なんですよ。会派の報告書をきちんと出しています。現実には聞きましたからね。

大田成長戦略室長　細かい議論をする気はないんですが、書いてあるのはただ必置である薬草園まで整備しようとするれば面積が不足すると書いてあるので、事業費の中に薬草園が入っているという書き方ではないんです。駅南に薬草園まで作ろうとするともっと面積が要りますよと書いてあるんです。

伊藤實委員長　はい、ほかに。それともう1点、人件費6,000万円、これ何人ぐらい増えるということですか。

大田成長戦略室長　一応10人程度ぐらいは要るであろうと想定はしています。

伊藤實委員長　分けることで、10人。



大田成長戦略室長 10人程度は要るであろうと。実際には、大学のほうに聞くと、もっと要るのではないかという意見はありますけれども、10人程度で抑えて試算しています。

伊藤實委員長 そうすると山大なんか、工学部、医学部、みんな分かれていますよね。その辺も同様ということよね、同じ国公立なので。その辺の裏付けはされていますよね。

長谷川知司委員 キャンパスを別にするというの是一緒にできる敷地がないから別にしていくという考えもあると思うんですね。ところが、今は本学のほうにそれだけの敷地の余裕があり、建物も余裕があるというのであれば、ある程度学生生活のことを考えたらどうかっていうことも一つの条件に入れていいんじゃないかと思います。

大田成長戦略室長 先ほど市長も言われましたけれども、厚狭駅の南部地区を我々が検討に入った一つのきっかけというのは、塚本氏が市長のところを訪問されて、新幹線駅の前の市が行った区画整備事業用地に大学を移転してくださいという要望があったのがきっかけです。そのときに塚本氏が言われたのは現在の工学部も含めて、全部大学をいきなり持って行ってくれということだったんです。というのが現在のところは利便性が非常に悪いので、あれだけ利便性の良い土地を市が事業用地として造られたのなら、そちらに大学ごと移ることが望ましいんだけど、市長のほうから、確かに市の事業ですけれども、底地について市が持っているんじゃないんです。土地開発公社と民地なんです。ですから、これから交渉し、土地を買っていく必要があるんですという話をされたときに、塚本先生が今言ったことはなかったことにしてくれと。そのときに薬学部の建設候補は、これから検討したいと思うんですが、という話になったときに、これぐらいの規模の大学でキャンパスを分けるほど非効率なことはないと。本学のように、一つずつのキャンパスが多いときにはキャンパスを分けるメリットは十分出るが、現在の工学部の定員と将来薬学部を作る規模では、キャンパスを分けるということは、自分の経験からして非常に非効率であると。ですから、彼はその日からずっと学校用地でという主張に意見が変わったんです。ただ、せっかく利便性の高い場所ですので、薬学部の校舎だけでいくことはしっかり検討しようということで、市長が検討に入られたという経緯があります。

中村博行委員 現在の学校用地のデメリットの一番下ですけれども、宇部市のほうに学生が多く住んでしまうのではないかという懸念もあって、4年間、山陽小野田市に住めば授業料等で優遇をするということは分かるんですけども、一番問題の宿舍関係の建設等は考えられているのか。

大田成長戦略室長 現在、大学の事務職員等とどうにか市内に下宿生を住ませるすべはないだろうかという中で、やっぱり一番有効な手段は学生寮を市内に造ること、これが最も有効な手段です。その次には現在学校法人東京理科大学もやっていますように、新生生のアパート紹介のときに少額アパート、推薦アパートということで、それぞれの大家に交渉して、電化製品は全て備えている、そして敷金は1か月以内に抑える、礼金は取らないとか、そういう大家の了解をいただいたアパートを、家賃は2万6,000円以下に抑えるというのは少額アパート、電化製品を全て備えて先ほどと同条件で3万3,000円以下に抑えるアパートは推薦アパートということで、あっせんをしているという状況です。ですから、公立化後、一番有効な手段とすれば、今、学校敷地内に学生寮がありますけど、40人定員の小さな寮ですから、もっと定数の多い学生寮を市内に造ることが最も有効な手段になろうかなと思っています。

白井市長 今の大田室長の答弁は、結局民間活力と言いますか、民間の力に刺激を与えて、そしてその力で活性化をという発想だと思うんです。それが一番正論かもしれないんですけども、部長クラスで毎週月曜日の朝9時から1時間ほど会議を持っています。そこで同じようなのが出たんです。それに対しては民間に任せると相変わらず宇部に行きますよと、学生は宇部を取られますよということでした。それでは十分じゃないんじゃないかと私は思っています。これは中に入ってみないと住めるかどうか分からないんですが、本山小学校の裏と萬福寺の裏とに雇用促進事業団、片方は単身者向け、片方は所帯向けのものが二つあるんです。評価額の半額で良いからというので、来年の3月までに返事をしてくださいという課題はあるんです。結構住めるものの、なぜ市営住宅にしないのかと私が建設部に投げ掛けたところ、公営住宅にするときちんとした階段を付けないと規格に合わない建築物になるということで、学生なら4階、5階ぐらいは歩いて上下するだろうという、そんな感じですね。ですから、それも一つの候補として、もう少し具体的に絞る形で取り組んでみたらどうかなとも思っていますし、萬福寺の前のほうは、所帯持ち用なんです。現在まだ20世帯ぐらい住んでいらっしゃる。ですからその1棟は使えない状態じゃないんです。サッカーの関係もありまして、

適当な住まいを用意したらどうかということも頭の片隅にあって、学生向け兼レノファ向けという形でも使えるんじゃないかというのが、萬福寺の前、あそこも4棟あるんですけども、百何十戸入れるんですよ。家賃だって、買った市が決めればいいことですから、すごく低家賃で提供できるし、レノファ山口には言ってみれば形だけでも構わないと思うんです。それから学生にも一人1万円とかですね、やはり民間と比較して破格だと、断然安いと、という形で選択してもらえそうなものを用意する必要があると、今その過程にあります。

石田清廉委員 今、室長と市長の回答で、なぜ最初にそれだけのことを先に説明なさないのか。私は今までの委員会の中でも、やっぱり学生が地元に住んでくれる条件を整備すれば、優遇措置を作れば、宇部に流れることが少なくとも食い止められるんじゃないかと申し上げましたけれども、簡単に行政がそこまでやれませんかと断られました。今になって、非常に丁寧な説明をいただき、それならいけると私は改めて思っているんですよ。ですから、そういう条件整備ができるということと比較表の中に入れて、選択肢の中で現在の理科大の場所と厚狭駅前の比較、単なる比較じゃなくて、どちらにもメリット、デメリットがあります。デメリットがあるならば、どうすればこの選択肢の中で解決できるのか。その上でこちらを選択しますという提案なら、今みたいなことを付き添えていただければ、選択肢はおのずと左側になってしまうんですよ。それを何も書かずに、さあ選んでくださいと言われてたって。なぜ今までそのような説明が提案の中になかったのか説明いただきたいと思います。

白井市長 申し訳ありませんけど、追い詰められてどんどん考え方が発展していくんです。

伊藤實委員長 今のことですけど、実際さっき言った目的が生徒に住んでもらおうというわけです。実は宇部も同じことをするんですよ。山陽小野田市だけがするんじゃないので、やはりそういうことも検討すべきなんですよ。だから、山陽小野田市だけの優遇策とはならないので、やはり生徒を宇部市に住まわそうとする活力と山陽小野田市に住んでもらう、これ地域間競争なんですよ。

大田成長戦略室長 市長のほうから雇用促進住宅の話があったので、雇用促進住宅、実際に建築住宅課の建築士を連れて行って検討に入ったのは、つい最近です。評価額に対して幾らで買えるか、そして、今建築住宅課の

ほうで必要最低限の改修費が幾らかという試算をしています。その改修費を取り戻そうとすれば、かなりの家賃設定を高くせざるを得ないんですけれども、そこを抑えるということは、その補填というのが市の予算で出てくるということですので、そこがまだ決まっていない状況の中、あえて説明は控えさせていただいたということでは分かっていただければと思います。

白井市長 評価額の2分の1というのがこの雇用促進事業団から委託を受けた業者の提案です。しかし、交渉段階ですから、2分の1と言われれば3分の1という、当然そんなところまで進んでいきます。

大井淳一郎委員 今、雇用促進の話が出ました。地元なのであまり言いたくないところはあるんですが、雇用促進はかなり年数がたっています。それに対し、大学生のニーズというのは、はっきり言って洋式、ウォシュレットが付いてないといけないぐらいだし、あそこはバスの通りが実は良くないんですよ。だから、まともに雇用促進と交渉して買ったはいいいけれども、実際に大学生が入ってこないリスクは多分にあるので、その辺はかなり手を入れていかないといけないと思います。いかがでしょうか。

大田成長戦略室長 建築士にも伝えてあるのは、若い人が住もうと思うような改修をしないと、作った方がいいが住んでももらえないという状態が起こるんです。最近の傾向は、安い家賃のアパートよりは新しくてもきれいでセキュリティがいい、便利がいいというところに流れる傾向にあるというのは大学からも聞いています。ですから、この度の改修については、畳の部屋を全部フローリングに改修したり、トイレをバス、トイレ一体型のユニットに変えたりということが、実際に寮として使うなら必要になるかと思いますが、そこまでやると、家賃設定がかなり高くなるんです。でも、それを学生に入ってもらうためには抑えないといけないので、その差額をどうするかというところは今後協議というか検討課題になるかなど。そういうところも含めて、利用の是非を検討しないといけないと思っています。

大井淳一郎委員 もちろん雇用促進の検討もいいんですけれども、先ほど室長が言っていた民間活用ですね。不動産を使った民間活用、大学周辺のまちづくり、こちらもちょうと進めていく。その中でやっていかないと、一遍にやっていると失敗したら大変なことになるので、その辺はお願いしたいと思います。

山田伸幸委員 雇用促進のうち、松浜団地と通称言われていた、あそこはものすごく古くて、改修でも無理なんじゃないかなと思わざるを得ないような建物です。現実、ほとんどゴーストタウン化していて、地域でも非常に問題になっているところですよ。これがどうなるのかっていう、今の案の中では萬福寺のほうの雇用促進についてはイメージができるんですが、もしあちらのほうに手を入れるとなると、全部更地にせざるを得ないような状況になるんじゃないかなと思うんですが。

大田成長戦略室長 建築士に見てもらった状況によると、松浜のほうは改修しても非常に厳しい状態というのは聞いていますので、大学から近いのはそちらのほうに近いんですけども、やるとすれば西が迫のほうターゲットになろうかと思います。

吉永美子委員 雇用促進住宅の件については、今お話が出たように、私もちょっと学生が入るのかなという心配に思って、車も持ってないだろうしとってお聞きをしていたところで、やっぱりこういうことをやろうとするときには、山陽小野田市に住宅関係の不動産業者、住宅関係の業者が複数おられますよね。かつ学生のアパートをされている業者も複数おられると思うんですよ。やっぱりそういったところに意見を求めていく、中の1級建築士だけじゃなくて、そういった外部の声を聞いていくということも大事じゃないでしょうか。

大田成長戦略室長 実際に学生の寮として使うということになれば、当然最近の学生がどのような寮を望んでいるか、どういうアパートが人気があるかについて、改修前に意見を聞く必要があると思っています。特定の業者よりは、不動産協会にお願いして意見を聞くようになろうかなと思っています。

吉永美子委員 不動産協会に聞くというのもやり方だと思うんですけど、特定という意味ではなくて、推薦アパートとか少額アパート、いわゆる民間の活力を活用するという意味では、うちが一步前進して、学生を山陽小野田市に住ませようというときに、どうしていったらいいかを決定前に知恵をいただくことは大事だと思いますが、いかがですか。

大田成長戦略室長 不動産協会と先ほど言ったのは、複数の不動産業の方が集まっておられる場で意見を聞きたいということで、特定の業者との接触

のみを避けたいと思っています。現在の東京理科大学の住宅政策についてかなり批判的なものを発信しておられる不動産屋も市内におられるやに聞いていますので、特定の業者等との接触は避けたいと、複数の業者と話し合いたいと思っています。

白井市長 ちょっとずれるんですけど、厚狭駅南部地区の土地開発公社が持っている土地、その上に20戸ずつ3回に分けて、合計60戸の県営住宅を建てますという約束は、市と県との間でできています。それをいつか実現したい、できるだけ早い時期に実現したいと考えています。

大井淳一郎委員 その県営はコンパクトシティと別と考えていいんですか。

白井市長 コンパクトシティとは別です。

伊藤實委員長 その議論はまた。全然違うので。

岡山明委員 確認しますが、今、住宅、住宅と言っているんですけど、先ほどお話があった寮として学校に関わるような施設の下宿、寮をいつの間にか住宅、住宅という形で寮の話が出ないんですけど、その辺は学校との連携はどうなんですか。

白井市長 寮と言われるのは結局山陽小野田市が建てて、そして運営するというものですからね。ですから、市の住宅政策の一環だということになります。

岡山明委員 大学側はそれに関与しないっていう形ですか。あくまでも山陽小野田市が市の寮の管轄っていう形になりますかね。

白井市長 公立大学ですから、この件の場合は山陽小野田市立です。器は全部用意して、そして中身を大学として使っていただくというのが公立大学です。

長谷川知司委員 話を元に戻すんですが、今、宇部市に住んでいる学生がいると。この実績は宇部市との土地交渉で話はされていますか。

白井市長 学校法人東京理科大学が20年間、青色と赤色を合わせて、宇部市から借りているのは3万3,000平方メートル。それを20年間無償で

使わせてもらいました。市民感情うんぬんと言われるわけですが、しかしながら、学校法人時代もそうですけれども、そこに通う学生のある程度の数の学生は宇部市内に居住先を求めていると、そういうこともありますという話は話しています。

長谷川知司委員 だから宇部市にも相当のメリットがあるということですね。今後も市内に住んでもらいたいけど、どうしても学生の中には宇部市に住む人がいると思うんです。そういうことで宇部市にもこの大学はメリットがあるということを強く強調すべきだとは思っています。

大田成長戦略室長 実際、市長同士がお話をされるときに宇部市のほうから、「学生もそうですけど、教員はほとんど宇部市に住んでいると思っているので、そういう面では宇部市もありがたい」ということは、宇部市の副市長からありました。ただ、1987年の短大開設時からほぼ30年にわたり、無償で土地を貸し続けました。これを公立大学法人になっても期限を切らずにずっとということは、やはり今の市民の理解を得ることは難しいという話を宇部市からいただいたので、何らかの形で、購入その他の協議をしましょうということを言われました。

河野朋子委員 ちょっと気になったのが、交渉という形になっているのか、向こうの返事待ちでとにかく向こうが言われるのを待たれているのか、もう少し交渉をして、その辺りを折り合うということが可能なのかどうかお聞きします。

白井市長 これまで30年間無償でした。しかし、全く宇部市に利益がなかった、恩恵がなかったというわけでもありません。その辺の事実関係を前提にして、最初は10年間無償で貸していただきたいという話をしました。前の消防組合の会議の後です。最終的には双方の市民感情でお互いに納得できる線を模索しようということで、Aという案を出して、ノーと言われたら話がなくなるというものではありません。一番のベース、「使わせてください。よろしいです」という、そこだけはしっかりと合意されました。ただ、あと「使う、使わない」についての権利関係、法律関係について、さらに協議しようということになっています。

吉永美子委員 市民感情という言葉が出ましたけれど、宇部市の市民が宇部市にも恩恵のある大学が山陽小野田市に公立としてできることに反対するという声を聞くということでしょうか。市民感情という部分をどう理解

したらいいのかよく分かりません。

白井市長 20年間、3万3,000平方メートル、ずっとただで貸していて、また10年間もただで貸し続けるのかということについては、やはり複雑な気持ちを持たれる方もいるんじゃないでしょうか。

伊藤實委員長 今回の件ですが、山陽小野田市民も同じ心情になるんじゃないですか。宇部市に建設するわけでしょ。ほとんどの人がまさか宇部市に薬学部を建設するとは思っていないと思います。このことが分かった場合、それも購入するということなので、やはりそういうところも含めて、交渉事なので10年間、要するに大学の経営が軌道に乗るまではということ。今の話は、「もう買います、買います」という話で、交渉事としたらどうかと思います。そういうところもしっかり積み上げていくところがどうも見えないんです。市長が言われるように宇部市の市民感情もあろうけど山陽小野田市民の市民感情がどうなのか、宇部市に建設するというところ。だから、公立化の話も「宇部市に最初に話があった。でも、断ったから山陽小野田市に来て」という話からですよ。やはり、そういうところをきっちりとしていかないといけないと思うんですよ。だから、市長が先ほど目的として、若い人たちに住んでいただいて人口を増やそうと、地域活性化をしようと、それは一緒なんです。その手段として、山陽小野田市により大きく反映できることを最優先に考えるべきだと思うんですよ。資料の中の学生が4割宇部市、本来であれば、100%山陽小野田市に住んでもらいたいんですよ、教授を含め。やはりそうなるようにまずやっていくということが大前提じゃないかと思うんですよ。そういうところをちゃんとしていかないと、4億幾らで買うとかいった話になった場合に山陽小野田市民からすれば、どれだけのメリットがあるかという話になるんですよ。だから委員会としても、連合審査をして、執行部の意見も聞きながら、目的は一緒なんです、この時間を大切にしないといけないと思って、市長を交えてその辺の話をしているんですよ。

白井市長 宇部市側も市民の代表は議員の皆さん方ですから、議会と協議したいという返事でした。

大田成長戦略室長 宇部市の方も聞いておられるので、あえて言わせていただきたいことがあるんですが、先般宇部市長と私どもの市長が協議をした際に、宇部市長から学校法人東京理科大学の理事長が挨拶に来られたけ



れども、具体的に宇部市に公立化をしてくれという話はなかったので、そこは間違いなく発言をしてくださいということがありましたので、あえて言わせていただきます。

笹木慶之委員 冷静にこれを一字一句読んだんですが、デメリットのところは校舎建設でいわゆる建設費に土地代が上がりますよね。そうすると上から消えるものがどんどん出てくるんですよ。例えば利便性のところは現在の学校用地はデメリットですよ。南はメリット、非常に強力なインパクトがあります。その次にデメリットのところを書いてあるのは、あくまでも分けた場合の仮定の話であって、現実的ではないんじゃないですか。2点目の校舎の今の用地のところ、メリットは何もなしで、駅南は用地の形状が制約されにくいので、設計に自由度があるとあります。それから、価格のところをみて見ると、先ほど言いましたように、薬草園は関係ありません。以下のものについても、工夫すれば何がしかの対応ができる部分が随分あります。だから、これはそんなに遜色ないと思います。その次、管理運営のところ、これは薬学部、工学部を一体的に管理運営できるので、効率的であるということですが、これは両方に言えることじゃないですか、仮に考えたときには。今すぐということではなくて、先ほど市長が言われたように何年か先ということを含めて考えてみれば、あまりここはそんなに力点がないと思います。その他で考えて見ると、ここは明らかにメリット、デメリット逆転していますよね。これは宇部市にうんぬんということのデメリットが強烈であって、メリットはこれからコンパクトシティの問題もありますが、駅南の開発につながる大きな呼び水となる。厚狭駅新幹線の増加につながる。のぞみ、ひかりが止まるという可能性を持っている、通学を考えると。そして、もう一つデメリットのところ、全然交渉もしていないのに時間を要するって、交渉は関係ないじゃないですか。もう一回よく精査したほうがいいんじゃないですかね。どう思われますか。

大田成長戦略室長 一つ一つの議論はしようとは思いませんけれども、ただ一つだけ、先ほど言ったようにキャンパスが分かれることによって掛かる経費のデメリットをここに書いています。さっきも言いましたように東京理科大学の薬学部の教育ノウハウは一年次から基礎的な研究をさせるということなので、それであればこういうことになりますよということを書いたのであって。まあやめましょう。またそういういろんな意見があれば言っていただければ、それをこの表の中に盛り込んでいきたいと思えます。

伊藤實委員長 言うていただければって、委員会を軽視してないかな。今言われるように、分けても波及効果でどうかという試算をしたかということでも全然してないわけでしょ。今日の一般質問でもあったじゃないですか。公共施設、警察署の跡地、厚狭公民館の跡地、やはり議員の中でも新幹線のところが活性化することによって、水害等ですごく評価が下がった部分をこれを契機に、固定資産税、それと市の所有地、そういうところにどんどん波及するんじゃないかということを行っているわけよ。要は大学自体の、民間じゃないので収益はないんですよ。何で上げるかという生徒が増える、そして民間がそこに張り付いてくる、そして設備投資をして、というような好循環を作るといのがこの大学設置の目的なんですよ。そこを試算しないで、全然議論にならない、こんな資料じゃ。議会報告会等でこんな資料を出したら市民、不動産会社などいろんな専門家の人から相当指摘されますよ。だから、我々はちゃんとした資料を求めてやっているわけよ。

平田成長戦略室員 スケジュールの説明をします。お手元のスケジュールは10月半ばぐらいに作成したもので、設計にあと2か月程度ほしいなど。それから工事であと2か月ほしいということで、これを描画してみるとそういう結果になってきました。現在、設計においては、先般から東京理科大学の野田に行きまして、理科大の先生ともお話をする中で、2か月程度縮められたのかなということで自負していますけど、結果的にはあと2、3か月ぐらいは工事に余裕を持たせたいというのが本音です。この業務を進めるに当たり、2点の課題があります。薬学部の新設に向けては文科省の設置審議会の審査に合格させること、それには設置審に対して不利な状況は作れないということ。それから設置審は厚生労働省による国全体の薬剤師抑制策によって、薬学部の新設については原則として反対の立場から審査に入るということを聞いています。2点目は、教員を確保するという課題があり、そのためには早期にリクルートを開始する必要があるということがあります。新しく赴任される新教授に対しては、研究設備の具体的な内容を示す必要があります、現在行っている調査研究に時間的な穴が空けられないということがあります。また、設置審ですが、仮設校舎によって急場をしのぐということは認めていないということがありました。10月に帰任して、まず行ったのが、旧放送大学、今の総合情報センターの改修を行い、そこで新教授に対し、基礎的な研究をしていただくというのが当初の案だったんですが、ここは絵を描いてみますと、建物自体が面積も狭小であり、できても2研究室程度、

経費は億の単位で掛かるということがありましたので、これは無駄であり、議論の結果、アウトにしようということになりました。スケジュール表を眺めながら、学舎を新設するには、設計や工事の期間にあと4か月ほしいと思っています。言い換えれば、4か月短縮することができたら、薬学部の開設と学舎建設の新設を同時にできる。これであれば設置審も問題がなく、また経費的にも無駄なことをする必要がないということで、現在はこれに向かって取り組んでいるところです。リクルートに当たっては、一番肝要と言われる研究室を新教授に向け紹介するということで、先ほど言いましたように東京理科大の本学の協力の下で教授とひざを付き合わせ、研究室や実習室の設計の素案を作っております。この素案は、12月8日市長と薬学部設置に向け、東京理科大から全面委任を受けている方との協議があり、承認を受けることができました。これについては、来年1月よりリクルートするというところで伺っています。新教授のリクルートについては、しっかりした教授を探すためには約6か月程度掛かりますが、10月の中ごろに作成したスケジュールからは約1か月工程的には縮めています。このリクルートについては、全体工程からは関係ないように思えるかもしれませんが、研究室や実習室、これが学舎のキーとなりますので、これをまとめないと全体ができませんので、これを先行しています。予定ではこの12月に調査や設計の委託の補正をして、それらの発注を年内にして、1月には1万8,000平米程度の学舎の設計ができるコンサルタントを決めたいと思っています。本来ならば、設計期間を来年度いっぱいまで取りたいんですが、工事期間を考えると来年12月の議会には工事業者の決定をみたいと考えております。この基本設計と実施設計については、4月末までを基本設計、5月からは実施設計と考えています。現在は予算の関係から、設計の発注委託ができないため、自分の内業でこれを短縮するしか今のところ方法はありませんが、これも一人での限界に近づいています。次の山に移りたいと、これには一人ではできないというところまで来ています。工事の期間についても、本来なら新教授の移転時間も年度内に、1か月程度ほしいんですが、完工が年度内ぎりぎりと思っています。当初の予定では建物は鉄筋コンクリートで考えられていたようですが、型枠工、鉄筋工の不足からこの業務量を減らさないと、とても間に合いません。そこで、工期の短縮を図るために現在では鉄骨造でやりたいと考えています。仮に従来の鉄筋コンクリートで施工すると、1階から2階、2階から3階という各階層間で約1.5月を要しており、これは厚狭地区複合施設を実績にしていますけども、7、8か月掛かると。ここでは、鉄骨で5階

ですが、5か月ぐらいを考えています。スーパーゼネコンでは4か月と書いていますが、これは市民病院の施工実績から記載していますが、市民病院も頑張っていましたので、この4か月というのめかなり厳しい時間となっています。次に費用計上ですが、この工事の発注に向けては金額がほぼ確定するであろう9月議会で工事の補正予算を上程して、その後工事の発注の段取りをするように考えています。平成29年度施工の外構工事、研究機器は当初予算として計上し、同年9月に業者承認を取りたいと考えています。文科省の設置審議会は開学の1年前の年度末に申請を受け、調査のため本市に来ると聞いています。その折には、施工工程から基礎工事の完了程度はできていないと考えています。現在行っています間取りの素案作りやまとめについては、とても時間的に手戻りができないという状況で進めているところです。

伊藤實委員長 はい。工程について。

矢田松夫委員 スケジュール表は、よく分かりました。ただ先ほどから問題になっている市民感情ね、これは議会とか、議員ということに当たるんですが、このスケジュール表から見て、いつ頃までを想定されて、いつ頃までがタイムリミットなのか、お答え願えますか。

平田成長戦略室員 できるだけ基本設計に4か月程度掛けたいと思っています。今12月で年内に発注をしますと、1月末ぐらいに業者が決まって、3か月ぐらいで基本設計のまとめをやるようになるんですけども、今、私がやっている業務というのは、研究室と教授室、それから機器関連の部屋、その絡みを部屋を一つのパーツと言いますか、セクションと言いますか、一つにまとめて組み立てていこうと、あと一つ一つのブロックが団子となって集合してきますと、あとはテトリスブロックのように、組み合わせのいいところをやっていくと考えており、月末ぐらいを目途に実施設計に掛かればいいかなと思っています。ですから、いつまでということでの期限は、なかなか難しいんですけども。

矢田松夫委員 平田さんに質問したんじゃないかと、分かる人に質問したんですよ。宇部市議会、いわゆる宇部市民の市民感情と先ほど言われたから、宇部市議会、宇部市の議員でしょう、市民感情というのは。ですから、そのタイムリミットはいつ頃なのか、どうされるのかを質問したわけです。

白井市長 土地の利用を巡る権利関係についての双方の歩み寄り、その交渉は残っていますけれども、しかし宇部市としては、これまで30年間学校法人東京理科大学として使ってもらいました。引き続き公立化後もこの土地を役立ててほしいという気持ちは持っておられます。ただ私が成長戦略室から聞いていますのは、今日がタイムリミットで、今日遅れるともうこの平成30年度の校舎供用開始、これは間に合いませんと聞いているものですから。

山田伸幸委員 図にしたスケジュールはこうですけど、私が一番心配するのは、それを受ける業者が果たしているのか。ここなんです。いろいろな大型の公共工事なんかでも、どんどん遅れていますよね。受け手がいない、どこもいっぱいいっぱいだという話、国立競技場なんかでも、受けられるのは、本当に限られたところしかなかったという話もありますし、この山陽小野田市の大学のためにわざわざ時間と労力を使ってくれる、そういう業者がいるのかどうなのか。その点の見通しはどうでしょうか。

平田成長戦略室員 業者の見通しということですが、今、山陽小野田市に関連している設計事務所辺りに、その情報を得ながら、落札業者は多分出るということは、情報としてはいただいています、正式ではありません。

河野朋子委員 議案を出されて、これのタイムリミットがいつなのかという、すごく重要なことを聞かれたわけですけども、今日がタイムリミットというのは、余りにもどうなんでしょうか。本会議の日程は18日が最終日ですし、それとそもそもこの一般会計で債務負担行為について出されたときに、これは理科大に関することであって、その辺りが理科大の特別委員会のほうにも説明がなかったのも、きちんとこれを解決して、そして議案の採決に備えたいということで、こういう委員会を開いているので、ここでしっかり納得した後で、採決に至るというのだったら分かりますけれども、最初にゴールがあって、今日じゃないと駄目ですというのは、余りにも議会の委員会審査を軽んじてるんじゃないか、あるいはもうゴールを決めてしまっていて、もう決めるしかないと言われるのは、ちょっと大切な問題であり、将来にも大きな影響があるし、相手の宇部市もあることなので、この辺りをきちんと不安を払拭した後で、この辺りの出された提案をきちんと審査したいという意味で、こうやってしていますので、今日が本当にタイムリミットというのは、どうなんでしょうか、もう一度お伺いします。

白井市長 私が聞いていますのは、平成30年4月に薬学部を開設するためには、次の3月議会に建設事業費について議案として出すことになると思います。今はその前の基本設計、実施設計についての設計料を補正予算としてお願いしたいということです。

下瀬俊夫委員 さっきの平田さんの説明の中で、厚生労働省の審査会がまず駄目ということを経験して始めるという話がありましたよね。それが通らない限り薬学部は関係ないんでしょう。だから、そういう説明をされると、こんな審査をしたって何の意味があるのかと、逆に思ってしまうんですよ。

大田成長戦略室長 平田さんの説明が少し言葉が足りなかったです。彼が言ったのは、実は薬学部の新設の申請に先立って、文科省に何度か相談に行っていますけれども、そこで文科省の担当から言われたのは、今、国は薬剤師を作らないという政策なんだと、国全体では薬剤師がダブしていると。それは厚労省が主導している政策であって、それに基づいて、3年前に薬学科の修業年限が4年制から6年制に変わったと。そして3年前から国家試験の難易度が一挙に上がった。そういう状況の中、薬学部を作るとするのは、非常に風当たりが強いですよ。ということは、設置審議会は、基本的にそういうことも踏まえた立場から、つまり反対するという立場から審査に入られるというぐらいの覚悟をもって申請をされないとは簡単には通らないと思いますよという話がありました。ということはどういうことですかとお聞きしたら、突っ込まれ所がないような申請書類を作ることが大原則ですと。で、一緒になって申請書類を事前に何度かやり取りをする中で作っていきましょうということがありましたので、そういうことがあって先ほどそういう表現になったと思うんですが、申し訳なかったです。

伊藤實委員長 今、厚労省が言うこと、全くこの委員会でも一緒です。まず委員会にちゃんとそこをやってもらわないと。厚労省だからそうって、そこがおかしいんですよ。さっきから言うように様々なシミュレーションを想定した中で、こういうことでこうなんですと、やっぱり丁寧な説明、当然これも市民も聞いているし、やはりそこですよ。それをお国のほうはうるさいから、厳しいからって。冗談じゃないですよ。これは、本当にこのまちを大きく左右する話なので、我々はこうやって合同審査してるんですよ。ちょっと一回ここで休憩しましょう。

---

午後 4 時 3 7 分休憩

---

---

午後 5 時 1 5 分再開

---

伊藤實委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開しますが、時間延長しますので、御理解をよろしくお願いします。

白井市長 先ほど私は何を勘違いしたのか、今日ぜひ採決をお願いしますと言いました。私の頭の中には週末が本会議で、その前の審査は今日だけだと思っていました。その後、周りの人の話を聞きますと、本会議の最終日、期日の延期ということもありますという話を聞きまして、審査だって今日だけではなくて、2回、3回十分あり得る話だと。それでもう一回皆さんにおわびして訂正させていただきますが、今日じゃなくて結構ですが、何とか12月中に採決をいただけたらありがたいということです。申し訳ありません。先ほど来の反省もあり、また指摘も受けましたけども、まず宇部市の土地の件については、市長が宇部市長のところに出向き、権利関係の内容についてきちんとしてこようと思っています。宇部市の市長も議会と相談した上でと言われましたので、議会の開会中、その最後の日には、恐らく宇部市側の意向というのは固まっていると思います。それを受け入れることができる許容範囲かどうかということを確認した上で決めて、そしてとりあえず簡単な文書をそこで作って持って帰ろうかと思っています。また、先ほど来、1ページ目のメリット、デメリットの件について、執行部側、特に成長戦略室の説明がずさんではないのかという指摘もありました。その辺についてこの二人に懇々とよく言って聞かせていたところなんです。ですから、次回の審査の前には、最大限努力して準備するつもりです。審査を引き続きどうぞよろしくお願いします。

伊藤實委員長 市長からそのような答弁がありました。私からも市長には審査をするには十分なる資料等をさらにそろえていただかないといけないということを強く言っておきます。それで、今日もこういう状況になりましたので、本日は採決に入らずに、後日日程を調整して集中審議をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それでは、本日の委員会を閉会します。

午後 5 時 1 8 分散会

平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日

一般会計予算決算常任委員会委員長 伊 藤 實